

日本女子大学「女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト」の取り組み①

日本女子大学理学部教授・プロジェクトリーダー 小舘 香椎子

少子化・高齢化社会の到来と価値観の多様化の時代となり、女性が働き続けることへの要請が高まっている。これに対して行政的な措置としては、労働基準法の改定、男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、次世代育成支援対策推進法などが施行され一定の成果は収めつつある。しかしながら、女性研究者が出産・育児などのライフイベントにより、研究活動を中断したり、場合によっては断念したりせざるを得ないこともある。このような女性研究者を支援する試みも科学技術振興機構あるいは日本学術振興会などで行われ始めた。文部科学省は、平成十八年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業として提案の公募を行っている。三六の大学・研究機関などから提案があり、そのうち一〇の機関（結果的にはすべて大学となった）が選抜された。日本女子大学からは「女性研究者マルチキャリアパス支援モデル」を提案しこれが採択された。

本プロジェクトは、平成十八年七月に開始し、「出産・育児と研究活動の両立支援」と「女性研究者の活躍の場の拡大」を目的とし

たもので、その中核となる取り組みは、①育児中の研究者に研究助手をつけたり、ネットを利用した実験装置の遠隔操作や画像伝送など、さまざまな支援を行い、研究活動の低下を最小限にとどめること②電子情報（eポータルフォーリオ）への女性研究者のキャリア蓄積を行うとともに求職情報のデータベース化を活用したマルチキャリアパスのための支援③中高生などに対する親子理科教室や研究室の公開など、次世代研究者への教育・育成を含む調査・企画——の三本柱からなっている。上記目的のもと、プロジェクト推進室を開設し、次の三部門を設置し活動を行っている。

一 ユビキタス・リサーチ支援部門

【U-リサーチと研究助手の採用】

ユビキタス・リサーチ支援部門では、「育児中の研究者にさまざまな支援を行い、研究活動の低下を最小限にとどめること」を目的としている。ユビキタス・リサーチ（U-リサーチ）とは、すなわち「いつでもどこにいても研究活動を継続する」という新しい概念である。その支援を受ける育児中の対象者の

ことを「U-リサーチ」と呼び、研究者像の新しいモデルとして支援を行っている。事業開始後すぐにU-リサーチの公募をかけ、同時にU-リサーチを支援するための要員として「研究助手」の公募も行っている。現在、各U-リサーチには、研究・業務内容のマッチング後に研究助手を配置し、研究活動を円滑に進めるための支援が行われている。

【テレビ会議システムおよび遠隔操作システムの構築】

自宅にいながらにして研究活動を継続するために、実験機器の遠隔操作システムの導入、U-リサーチの自宅と研究室にテレビ会議システムの導入を行った。現在五台が稼働中である。遠隔操作システムとしては、電子顕微鏡でのデジタルデータ取得・転送のためのモジュールを導入し、現在実用的に用いられている。

【NPO法人との連携による

全国初の病児保育制度の開始】

本学には、さくらナースリーによる常設保育・一時保育、生涯学習総合センターによる

ロイヤルベビーサロン委託の一時保育（イベント保育）など、既に充実したさまざまな保育環境が整備されている。しかし、円滑な研究活動を進めるためには、子どもの病気など緊急時への対応が望まれる。そこで、NPO法人フローレンスとパートナーシップ法人契約を締結することにより、大学としては全国初の非施設型の病児保育制度を平成十九年十月より開始した。U-リサーチャーのための優先枠が確保されており、緊急時でも一〇〇%自宅に保育士が駆けつけるものである。

二 ヒューマンリソース部門

【eポートフォリオシステムの構築・運用】
任期付のU-リサーチャーや研究助手などを多様なキャリアパスで送り出すための支援を行っている。そのためにキャリアアップや就職時に必要となる研究者の経歴や技能、業績などをeポートフォリオに蓄積し、有効活用できるシステムを構築している。卒業生などへのシステムの公開も行い、運用を開始している。



プロジェクト取り組み概念図

研究ポスト拡大のため

【相談窓口の開設】
研究ポスト拡大のため



テレビ会議システムを利用したU-リサーチャーとの研究打合せ

開催し、女性研究者のコミュニケーション形成の促進を行っている。

【産学連携の推進】

本プロジェクトの取り組み、および本学で行われている研究を学外へアピールするために、各種展示会にも参加している。

三次世代育成のための調査・企画部門

【シンポジウム・科学教室の開催】

女性研究者・技術者の交流と学生へのロールモデル提示の機会として、シンポジウムの開催や、次世代育成のために最先端の科学技術を盛り込んだ、小・中・高校生を対象とした科学教室を多数開催している。

【アンケートの実施】

理系女性を対象としたアンケートを作成し、本理学部部の卒業生約一八〇〇名を対象にアンケート調査を実施した。アンケートの内容は年齢、学歴、家族構成などの基本情報、生徒・学生時代の理科に関する質問、仕事・結婚・出産・育児・介護などについての質問

めの努力、多様な就職先への支援活動、それを支える相談窓口の開設のために、企業の採用担当者からのヒアリングや、毎回さまざまな分野で活躍している女性研究者を招いてサイエンスカフェを

などである。分析結果として、回答した卒業生の約八割が理系を卒業してよかったとの意識を持っており、理系へ進学した理由は好きあるいは成績、先生あるいは親、親族の影響が大きいこと、修士・博士課程への進学希望も高く、就職後も長期にわたり働き続けている現状が分かった。



遠隔操作システム

以上述べたように、本プロジェクトの目的は「出産・育児と研究活動の両立支援」と「女性研究者の活躍の場の拡大」を目指しており、少子・高齢化、価値観の多様化の時代の要請にもっともマッチしたものである。まず、理学部・理学研究科からスタートしたが、他の学部・研究科あるいは附属校からも注目されており、順次適用範囲を拡大してゆくとともにある。

女子大学という身近なロールモデルが存在する比較的恵まれた環境の下で本プロジェクトを成功させることにより、ほかの機関がここで確立されたモデルを採用することにより、女性研究者支援の輪が広がっていくことを期待している。

次回から、各部門の活動やアンケート結果についての詳細を述べていく。